

 B. 各支部から

## しまね小児保健の活動

鳥根県小児保健協会  
松江赤十字病院小児科部長  
瀬 島 齊

鳥根県小児保健協会（以下、本会）は、松江市で小児科医院を開業されている飯塚雄哉先生が長らく会長を務められ、2000年7月、松江市で第9回中国四国小児保健学会を主催された翌年の2001年6月から、鳥根大学小児科山口清次教授にバトンを引き継がれて現在に至る。同時に事務局も、鳥根県庁健康福祉部健康推進課から鳥根大学医学部看護学科に移った。

本会は現在、200名余りの会員で構成され、その職種は小児科医、産科医、小児歯科医、保健師、看護師、助産師、栄養士、養護教諭、保育士、歯科衛生士、行政関係者など多岐にわたる。理事会は各所属団体の代表者により構成され、年1回開催される理事会で事業活動方針を検討している。

本会の年間活動の柱は、母子保健関係者研修会であり、小児科医、産科医、小児歯科医、保健師、養護教諭、栄養士、保育士、患者保護者会代表などが参加して、シンポジウム、ワークショップ、特別講演などを開催している。最近は、「子どもの健やかな発達をサポートするには」を基本テーマに掲げ、乳幼児健診の役割、食育の問題、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎との付き合い方、発達障害をもつ子どもの理解と支援などの話題を取り上げてきた。

また、2003年から本会の機関誌として「しまね小

児保健」を定期刊行し、会員の寄稿文やエッセイの他、前述の研修講演会や会員活動報告を掲載している。さらに、2004年夏から「しまね小児保健ニュース」を年2回発行して、母子保健関係者研修会をはじめ身近な講演・研修会の案内情報を盛り込み、レターとして会員に情報提供している。機関誌とレターの編集発行は、事務局の鳥根大学医学部看護学科講師矢田昭子先生が中心となって運営されている。

加えて、全国的な視野で見ると鳥根県の小児保健領域での情報発信として、鳥根大学小児科山口教授は、新生児マススクリーニングにタンドムマスを導入する研究をリードしている。近い将来、わが国の新生児マススクリーニングが、大きく変化すると予想される。

以上、しまねの小児保健活動について概略を述べた。小児保健学が対象とする実践研究分野は非常に幅広く、活動に参加する人々の職種も多種多様である。鳥根県小児保健協会の会員も、幅広い職種の会員で構成されている。このことは、会員が有機的に連携し、まとまることでさまざまな小児保健活動が展開される基盤と可能性を秘めていることを意味する。時間的・物理的にはさまざまな制約があるが、今後も引き続き本会を発展させていきたい。